

# 581 Architects in the World 世界の建築家581人

# 581 ARCHITECTS

企画・編集＝ギャラリー・間

監修＝三宅理一・村松伸・淵上正幸

# Bimal Patel

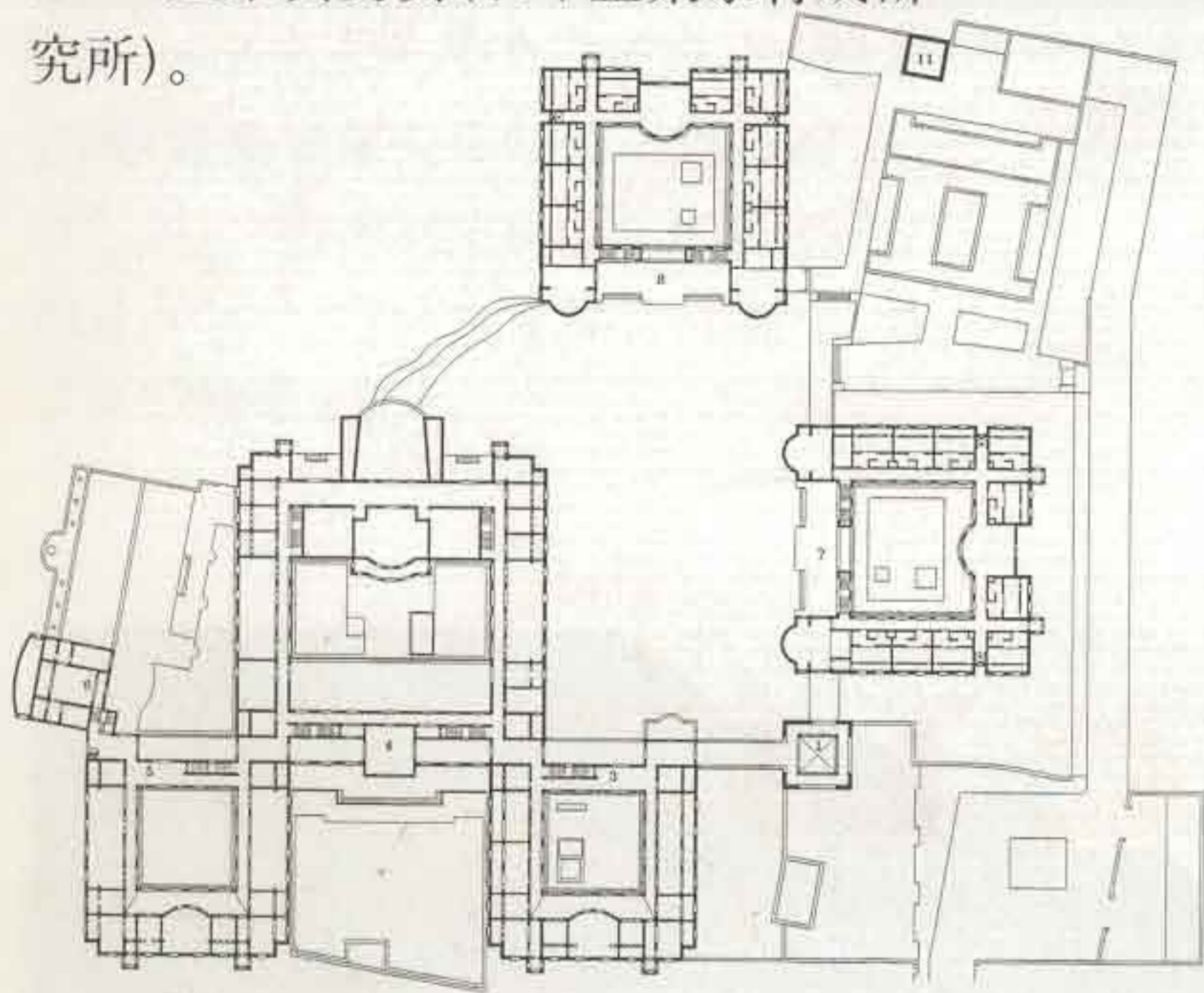
ビマル・パテル



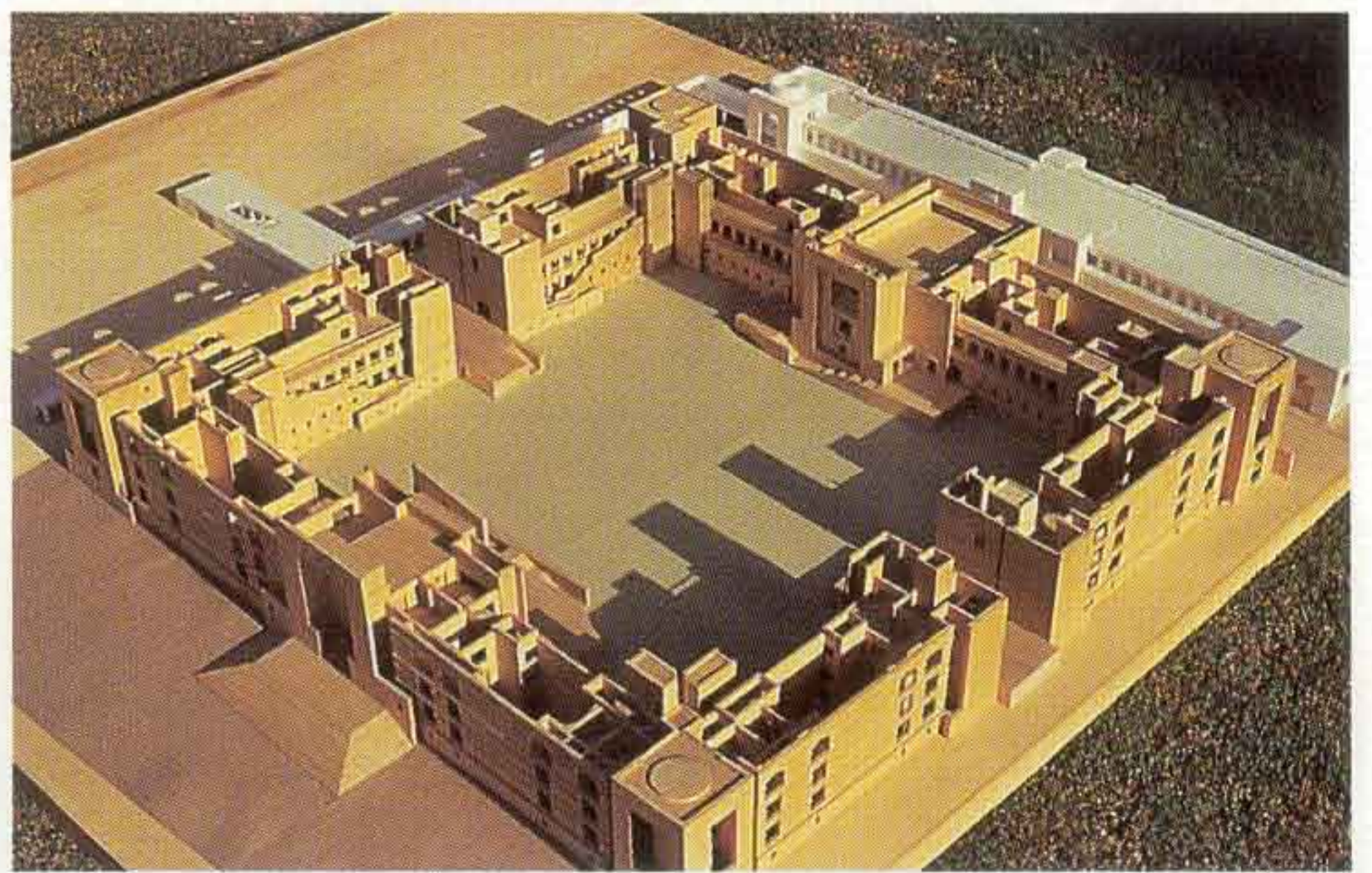
1961年インド、グジャラート生まれ。84年アーメダバッド、CEPT建築学部卒業。95年アメリカ、カリフォルニア大学バークレイ校博士課程修了。父親が設立したメセルス・ハムスクC.パテル建築・都市計画事務所パートナー。インド企業家育成研究所コンペ1位入賞。92年アガ・カーン建築賞受賞(インド企業家育成研究所)。



Entrepreneurship Development Institute of India, Ahmedabad, 1987, P: D. Mehta



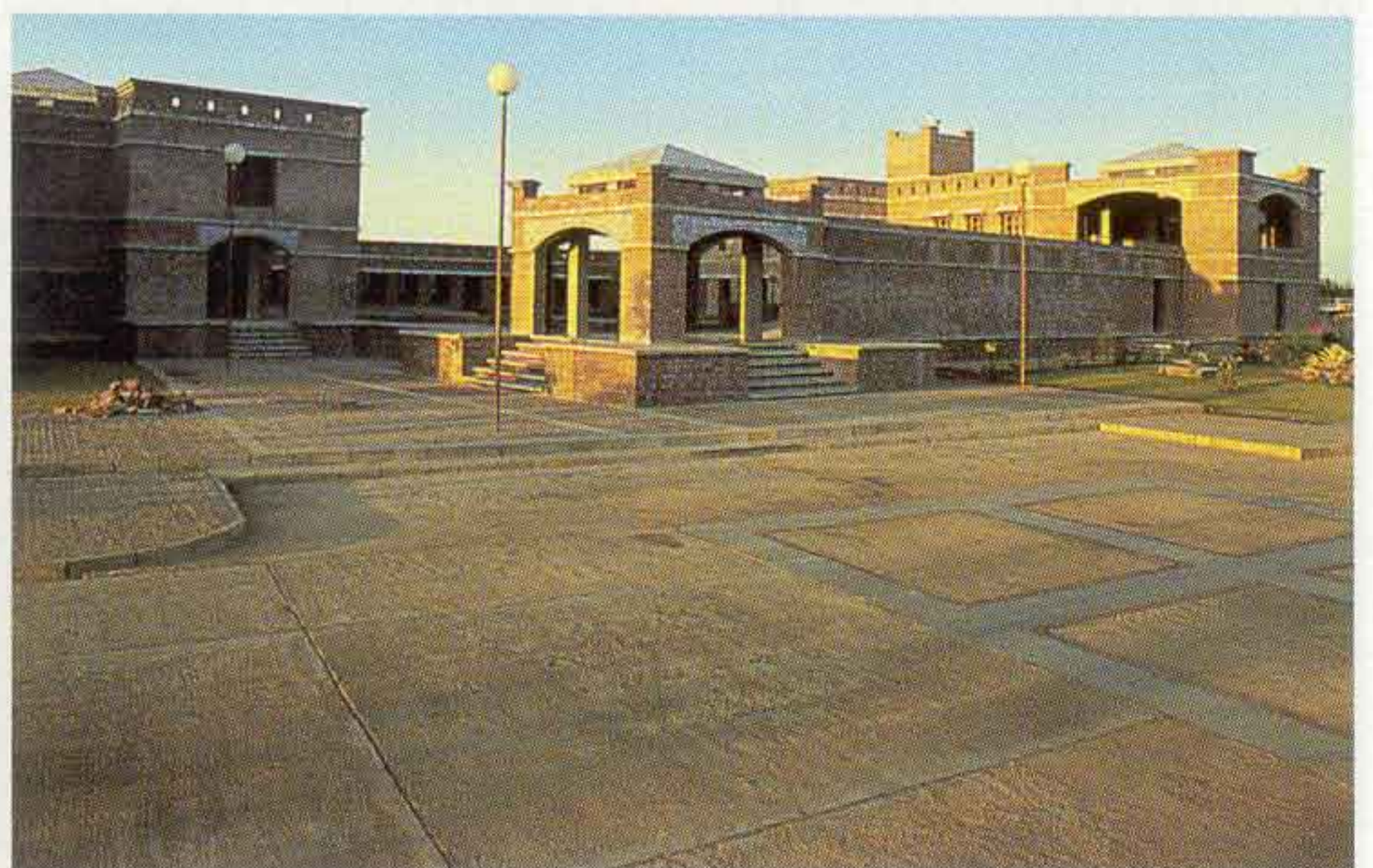
Entrepreneurship Development Institute of India, Ahmedabad, 1987



Gujarat High Court (project), Ahmedabad, P: W. Deen



National Institute of Port Management, Madras, 1991, P: D.Mehta



National Institute of Port Management, Madras, 1991, P: D.Mehta

ビマル・パテルは独立後のインドの第3世代に属する若い建築家であり、そのデザインはこれから構築されていく。彼の地元アーメダバッドには、伝統的なインド-イスラム様式や近代のすぐれた建築がある。彼は、10世紀以前からイスラムやムガルを経てイギリスの統治そしてル・コルビュジエやカーンによる近代主義にいたる長い時間を生き続ける伝統を学んでいる。

彼の最初の重要な作品は、アーメダバッドの「インド企業家育成研究所」である。国が行った設計競技で選ばれた案の第1期部分は1987年に完成した。簡素な煉瓦の壁、コンクリートの水平屋根、そしてヴェランダを覆う垂鉛メッキの

波板という簡素な素材への嗜好は、イギリス統治時代の数多くの公共施設とともにカーンの「インド経営研究所」にも影響を与えた、グジャラート州の煉瓦造りの伝統を巧みに暗示している。彼は場所づくりへのさまざまな配慮を、マドラス郊外に建つ「国立港湾管理研究所」で統合させた。その厳格な形式は落ち着いた研究所らしい特徴をつくり出している。古代インドの広場を思い起こさせる、空に向けて開放された中庭のネットワーク、軒の深いヴェランダやアーケードの設けられた回廊が、開放され屋根で覆われた空間の連なりとなり、一貫性をもたらしている。それは、広大な空間の中に単一の「オブ

ジェ」を置く近代主義的なアーバンイズムの空間とは対極にある。

彼の建築は、開放された階段や開口部で構成されたファサードから、窓の意匠や建物の縁や角部のディテールがつくりだす建築の図像にいたる、さまざまに分節されている。この分節は、新しい世代の建築家たちが基本的に探求すべきインド建築の伝統の複雑性を引き出している。「インド企業家育成研究所」はアガ・カーン建築賞を受賞し「インド-イスラム建築の遺産から発展した形態要素を自信をもって用いた」と評された。